

「もしもガイド」発行

近日配布予定の「もしもガイド」は、震度5弱以上の大地震が発生したことを想定し、災害発生時の混乱抑制・被害軽減・早い復旧復興を目的として制作しました。加古川グリーンシティのみんなでお互いに協力し合い、身の安全を守るための日常から被災後までの行動指針をまとめています。では「もしもガイド」を解説していきましょう。



「もしもガイド」1ページには、皆さんが「いま！すぐできる防災活動」を記載しています。

外出先では非常口を確認しよう

カーテンは閉めて寝よう

包丁は使ったら直ぐに元の場所にしまおう

日用品は多めに買い置きしよう

寝転んで危険を探してみよう

行けるときにトイレは済ませよう

災害時の集合場所を決めておこう

公衆電話の使い方を覚えておこう

グリーンシティの行事に参加しよう

「もしもガイド」を最後まで読もう



「もしもガイド」は「もしもノート(2018年3月発行)」と合わせてご覧頂くことが重要。防災活動は災害に対して大きな構えも必要ですが、今すぐには止められることができるものが本当は命を守る上で重要なことなのです。「もしもノート」を紛失した方は管理事務所まで。



【想定】震度5弱以上の地震が発生

地域内の協力者が少ないと考えられる、平日の昼間では、子どもたちは学校、多くの人が仕事に出勤しています。このような時間帯での大地震発生を想定しましょう。管理事務所は業務中ですが住民の多くは敷地内にいません。もしも、その時、あなたがマンションに居た場合、あなたは何をどのようにすれば良いのでしょうか？少し考えてみましょう。

最も大切なことは、自分の命を守ることを最優先に行動することです。いくら家族であっても、大きな揺れの中では他者を構う余裕なんてありません。自分の命を守る行動を日頃から家族で共有しておきましょう。

次に、自分の大切な人の安全を確認します。

『自分の大切な人の方が、自分よりも優先するから自分の命より自分の大切な人の命を守るように行動する』と綺麗事を考えられる方も多いようです。しかし、

自分の大切な人の安全は、基本的には大地震が発生するまでに安全の確保ができる環境を整えておく必要があります。地震が発生してからでは遅いのです！大きな地震は、あなたが日常の中で動くことができる行動にかなりの制限を掛けてきます。いつも通りがいつも通りに動くことができなくなるのです。これは高齢の方や障害のある方だけの話ではありません。年齢・性別関係なく動きを封じられてしまいます。そこで普段からの「決めごと」が命を守ることに繋がります。

大きな地震が発生した場合、自宅の中なら「この場所に避難する」といった**自宅内絶対的安心場所**を家族で意識共有しておきましょう。それは小さなお子さんでも同じことです。この場所なら、物が落ちてこない、倒れてこないという絶対的安心場所の意識共有です。

でも個々の家によって絶対的安心場所は違います。隣近所をマネしてもダメです。自分で考え自信を持って「ここだ」という場所を作りあげておくことが**災害発生までにやるべき重要な防災行動**なのです。しかし、そのような場所は作れないという方もいらっしゃるでしょう。ならばケガはしても命は失わない方法をあなたが考えておかなければなりません。

よく考えてみてください。あなたの命を守ってくれるのは「**あなただけなのです**」。どこかの誰かが助けに来てくれるなんてことは期待してはいけません。災害で救助された多くの方は、災害の発生の瞬間に死なずにすんだ方です。「**自分の命は自分で守る**」これが最善の防災行動です。大きな地震の後には、普段の生活を一変させてしまうことが多発します。それがあなたを待ち受ける「**非日常**」です。

【想定】ライフラインは全て停止

電気7日・ガス35日・電話7日・上水道30日・下水道7日。(近畿地方の95%が復旧に掛かる想定日数)

最近クローズアップされている情報入手困難。停電することで通信手段のスマホや携帯電話の充電ができず被災後3日目位から情報の枯渇に大きな不安を抱くようになってしまいます。先月の台風災害では全国でこの**スマホ充電問題**が多発し、充電設備を緊急で設ける自治体も多くなりました。普段からスマホの充電器や予備バッテリーは生活の必需品ですね。

ライフライン復旧までには大変時間を要します。災害発生までにあなたの必要なものを備蓄しておきましょう。備蓄に関しては「**もしもノート**」を参考にしてください。次回は『地震がマンションに与える影響』

